

日 本 体 育 大 学 同 窓 会 報

日本体育大学
東京都同窓会会報

第 2 2 号

平成 29 年 11 月 1 日 発行
発行者 東京都同窓会長
高田 幸一

平成二十九年年度

二期目に思うこと

会長 高田幸一

一期の任期を皆様のご協力で無事終え、二期目を迎えています。

同窓生の企業への就職が七割近くになった現在、同窓会の在り方も変化をしていくことが自然だと考えています。東京都は、世代交代を考慮しながら新会員の獲得に向けた魅力ある組織にしていくことが求められています。

任意団体としての課題もありますが、全国同窓会としてのつながりを持つ以上、志を共に東京同窓会として組織力をつ

ける必要があります。そのために会員の獲得をはじめ、同窓会士の信頼や仕事のやり方の情報を共有することが求められています。会員の皆様が、参加してよかったと思える活動のコツコツと積み上げていくことが必要であると考えます。

また、現在も規約改正委員会を立ち上げて会の運営が、現在の活動内容や方策を迅速に運営しやすいように改善を図っています。同時に若い人の同窓会の参加を具体的にできる案を示そうと努力しています。

これからの人々が、活動しやすい部活動ネットワーク、企業ネットワーク、卒業年度ごとネットワーク、趣味のネットワーク等の様々な繋がりをしっかりと

り組み上げ築いていく集まりを同窓会がつくる。それを全国に情報提供し全国同窓会と連携し学生支援に役立つことをしていきます。今後とも東京同窓会をよろしく願います。

教育支援委員会について

大学から示されたた大学への支援活動は七十歳までという世代交代の現実を真摯に捉え、東京同窓会では人材育成にしっかりと取り組むことを始めました。具体的には、十月二十一日、二十二日に教育実習指導研修会を開き新たな人材育成を図っています。今年度十名以上の新たな教育実習指導者を養成する計画です。現在、推薦者の要請をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

また、大学と連携して教員採用選考一次対策に協力支援しています。教育支援委員会小橋川委員長を中心に、きめ細かい指導の継続を基本に計画的に

行われています。

総会について

二十八年度までに、今までの会計に関わる重要案件の確認が無事終了しました。そのため二十九年度は、時間的に余裕を持って運営することができました。先人が築き上げた信頼を受け継ぎ、同窓会活動に活かしていくことを学びました。

しかし、課題もあります。それは、総会・懇親会の参加者が連絡した数よりも少ないことです。このため今年度は、東京都保護者会と共催して、竹内副会長のご尽力で、元日本体育大学バレーボール部監督、ミュンヘンオリンピックゴールドメダリストの森田淳悟氏を講師としてご講演をお願いいたしました。

「苦あれば楽あり」オリンピックに勝つまで」を同窓会員、保護者会の皆様、現役学生合わせて二百名近くの方が聴講され好評のうちに終わることができました。

ホームページ開設にあたり
二十九年度現在、東京同窓会の会員の皆様が待ちに待ったホームページが開設されています。これまで開設に携わって頂いた様々な方々に心より感謝申し上げます。
この情報発信は、東京同窓会の活動の状況と何が目的でどのように行われているのか、これから何が必要になるのかを皆さんと情報を共有します。
そして、情報提供の中でまた新たな同窓の参加を期待できると考えます。さらに、同窓が様々な場面で親睦を深めている活動を紹介し、それらの提供で新たな参加も期待できると考えます。
これからも、同窓の皆様や学生に必要な情報、新たな情報が常に得られる体制を整えていきます。定期的な更新は、大変な時間と労力が必要です。この

部分で、広報委員会の支援を厚くしていただかなければならないと考えています。ホームページが皆さんに愛され活用できるものにしていきます。どうかよろしくご協力お願いします。

関東・北信越地区協議会

二十八年度東京大会から

二十九年 度 福井大会へ

昨年度二十八年度十月八日、九日に東京同窓会が主催の関東・北信越地区協議会が開催されました。十二年に一度の東京大会は、竹内副会長を中心に皆様のご協力で無事成功裏に終えることができました。二年前からの準備委員会、実行委員会の運営にかかわった役員の皆様の奮闘に心より感謝申し上げます。

最後に、これまでもこの紙面でお伝えしているように、日本体育大学は、五学部八千名体制の大組織に大きく変化を遂げています。各県同窓会は、世代交代、若き世代の会員の獲得が喫緊の課題と言われて久しいです。私たちの先達が築いたものを引き継ぎ育てることも大きな課題と考えます。

東京は、NPOや社団法人をつくらな

いとする以上、新たな会員の獲得し安定した年間活動費を捻出することが必要です。同窓会活動をさらに充実し、親睦と大学支援を行うため、新会員を増やし年間活動費の確保に向け再考していく必要があると考えています。

東京都同窓会は、皆様のご協力とご支援で成り立っています。今後とも宜しくお願いします。

新学習指導要領を

見据えた教育の現状

「高等学校」

東京都立豊多摩高等学校

校長

大西 修

(昭和五十五年卒)

学習指導要領の改訂に向けた中央教育審議会の答申が平成二十八年度十二月に公表され、本年三月には、『予測困難な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成するため』小中学校等の学習指導要領等の改訂がなされた。高等学校においても、中教審の答申を受けて、教育の改善・充実に動き始めている。

中でも、「高大接続システム改革」における「大学入学共通テスト」(仮称)への対応は待った無しの状況である。平成三十二年度に実施される共通テスト初年度の対象となるのは、現在の中学三年生、平成三十年度の高校一年生である。すでに、今年度の高二・三年生から「大学入学共通テスト」のプレテストが実施されている。各教科・科目の特質に応じ、知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うものである。そこでは、マークシート問題と共に記述式問題が実施され、英語については四技能「読む・聞く・話す・書く」を適切に評価するため、民間事業者等の資格・検定試験を活用するとしている。

理念を具体化して育成していく。社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り開いていくことができることとしている。

各学校においては、資質・能力の三つの柱に基づき再整理された学習指導要領等に基づき、「カリキュラム・マネジメント」の中で、学校の教育目標や学校として生徒に育成を目指す資質・能力を明確にし、家庭や地域とも共有しながら、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を重視した教育課程を編成していく。そのため、明確な教育目標を掲げ、具現化するため、校長としてのさらなるリーダーシップが求められている。

その対策として、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の研究や英語四技能を評価する業者テストへの対応等、実施している学校も多い。教育に対する意識の高い中学生の保護者や塾等は、昨年から高校の新大学入学共通テスト等への対応を高校選定のポイントの一つに挙げているほどである。また、今まで育んできた『生きる力』を変更するのではなく、改めて捉え直し、標を掲げて進めていきたい。

平成二十九年度都同窓会

研修会・総会・

懇親会報告

都同窓会幹事長

関 敦彦

平成二十九年六月二十四日(土)に東京都同窓会 研修会・総会・懇親会を実施しました。

研修会は、講師に森田淳悟氏(元日本体育大学バレーボール部監督、ミュンヘンオリンピックゴールドメダリスト)を迎え、演題「苦あれば楽あり」オリンピックに勝つまで」と言うテーマで、ミュンヘンオリンピックでメダルを獲得した当時のお話を頂きました。

今年度は、研修会を初めて日本体育大学東京都保護者会との共催で行い、本会より六十名、保護者会より八十名、本会学生も三十名参加し森田氏の話に聞き入っておりしました。森田氏も予定時間を超えて話を盛り上げて下さいました。

総会は、本会長高田幸一の挨拶に始まり、来賓に、日本体育大学常務理事 今村裕様、副学長 松井幸嗣様、副学長 笠井里津子様、日本体育大学同窓会幹事長 塩谷和雄様をお迎えしました。今村裕様

からは、法人としての「ワンファミリー」についての説明が熱く語られました。

学長 具志堅様が出張のため、松井幸嗣様が挨拶されました。塩谷和雄様から、全国同窓会の近況について、教職支援センター長 後藤彰様からは、教職を目指す学生の近況が報告されました。

本部表彰は、高橋治憲(S45)・星越健一(S46)・大瀧吉夫(S47)・藤江和雄(S47)・井口一成(S48)『物語者表彰』松永憲則(S46)、落合信一(S48)の各氏が受賞され、松永氏の奥様も参加されました。最後に高橋治憲様から受賞者を代表し謝辞をいただきました。

議事は、参加者五十六名で、委任を含め、平成二十九年役員、平成二十八年度会務・会計報告、会務・会計監査報告を一括審議し、承認を得ました。その後、平成二十九年会務・会計案も承認されました。

懇親会は、学校法人日本体育大学理事長 松浪健四郎様も参加され、現役学生の自己紹介、校歌・寮歌など、短い時間でしたが、参加者八十七名で懇談し親睦を深めることができました。

以上報告いたします。

平成二十九年度

教員採用選考

一次対策講座報告

教育支援委員会委員

山本 収太朗

今年度の一次対策講座には、お忙しい中、多くの同窓生が講師として参加いただきました。

対策講座の冒頭、高田会長、小橋川教育支援委員長の挨拶に続き、今年度は大側から後藤教授の挨拶を頂きました。後藤教授から学生に向けて叱咤激励されている姿があり、一次対策講座への期待の大きさを感ぜられました。

対策講座は、午前と午後の一日の講習を四月十五日、四月二十二日、四月二十九日と試験直前の六月十八日、六月二十五日の五回開催しました。

講座の中には、経験豊かな現役の管理職による大所高所からの講演会を二回実施し、直前の講座には東京都二年目の教員による実践的な講義を行うことができました。多くの同窓の力が結集した一次対策講座となりました。

講座の申込者は、既卒者三名、現役四

年生三十八名、他学年十二名と、合わせて五十三名(過去最高)の申し込みがありました。大学での教授の方々からの講座に参加するようにと後押しがあったようです。また、東京都に限らず全国の受験者の申し込みがありました。申し込みをしていない学生の参加もありました。五回の講習参加者は延べ九十三名でした。

今年の講座を受講した学生の取組は、例年に比べて真剣に取り組んでいる学生が多かったように思います。何としても教員になるという意気込みが、モチベーションの高さにつながっていたと思います。特に、論文作成を指導して、指摘した事柄にしっかりと向き合い、具体的にわかりやすい内容に修正でき、互いに意見を述べあい、評価し合える学生を多く見かけました。

一次対策講座での講師の先生方の指導はもちろんですが、大学での講義や指導、日体教学舎の取組など教師になりたというモチベーションの高い学生の参加が多くなったという印象です。今後、教育支援に多くの同窓会の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

第一回東京都同窓会
ゴルフ研修会に参加して

中垣 範保

昭和三十四年卒

去る八月二十一日真夏の太陽が照りつける中、山梨県大月市にある「花咲カントリークラブ」で開催されたゴルフ研修会に日本体育大学東京都同窓会の精鋭十八人が集いました。第一回と言うこともあり緊張感のあるスタートでしたが、同窓の好みで和やかで楽しいラウンドになりました。

競技は新ペリアで、七十五歳以上はシニアティからのプレー可というご配慮も有り高齢者が上位を占める結果となりました。優勝は不詳私 中垣範保が（自画自賛）八十一歳で七十八の好スコアをマークし、エージシュート達成です。出来過ぎでした。準優勝は最高齢の八十四歳の尾田政雄氏でスコアは八十七でしたが、年齢を感じ

させない飛距離は眼を見張るものがあり、さすが元体操部は体幹がしっかりしています。第三位は若手の関毅彦氏で九十二のスコアでしたが次回を期待させるプレーぶりで大変楽しみです。現在東京都同窓会役員で幹事長の重責を担いご活躍中で、今回のゴルフ研修会でも大変お世話になりました。

我が日本体育大学同窓には現役のプロとして活躍中の方も多数おいでになります。中でも現在シニア競技で大活躍の室田淳プロに注目です。

先日の朝日新聞では「国内シニアツアー最多十八勝を挙げ最多勝記録を十九年ぶりに塗り替え、六十二歳でツアーを引っ張る」などと大きな見出しで報道されていました。室田プロ

誇れる我が同窓室田プロを当研修会にお招きし、研鑽の機会が設けられれば最高です。室田プロの益々のご活躍を祈念しながら夢の実現を願っています。

編集後記

今号では、都立豊多摩高校校長 大西修様より新学習指導要領改訂に関する貴重なお話をいただきました。ご校務のお忙しいなかありがとうございました。

教育支援委員会が関わった教員採用選考結果も、例年に増して好結果だと聞き及んでおります。次号でご報告させていただきます。

ホームページは、まだまだ試行錯誤の状態です。体裁も内容も不十分ですので、皆さまのご指摘、ご指導で、よりよいホームページになるようご協力をお願いいたします。

ホームページをご覧いただくには、アドレスバー（ネットの画面の左上にあります）に
www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com と入力してください。

ご要望など、東京都同窓会ホームページ事務局連絡フォームか、
vzk00103@gmail.com に直接メールをお送りください。

東京都同窓会 広報委員会委員長 角杉美恵子